

長野県農業大学校現地体験実習における集合研修を開催しました

長野県農業大学校総合農学科現地体験実習（主に南佐久の野菜農家に1カ月間住み込み、農作業等を体験する。）において、佐久管内の先進的・企業的な農業経営を視察するため、宮嶋林檎園（小諸市）と株式会社ファームあめりい（小諸市）において集合研修を開催し、農大生9名が参加しました。

宮嶋林檎園では、二男の宮嶋優作さんからお話を頂きました。宮嶋林檎園を経営する父親の宮嶋佐一さんは長野県果樹研究会の会長を務められており、宮嶋優作さんも果樹研究会の会員です。宮嶋林檎園は県内で先駆的に新しい化栽培を本格導入して15品種程度のりんごを栽培しており、優作さんからは、宮嶋林檎園の経営概況や優作さん自身の就農に至る経緯、佐久の若い果樹農家を集めたM9クラブでの活動などについてお話し頂きました。特に、M9クラブでは新しい栽培方法で、新しい品種を使って、新しい販売方法に挑戦することにコンセプトを置いて活動しており、りんご栽培の魅力や可能性についてお話し頂きました。農大生にとっては、体験実習で入っている野菜農家とは品目が違う果樹農家であり、大学生とも比較的歳が近い優作さんからの話しということもあって、親近感を持って話を聴いていたようです。

株式会社ファームあめりいでは、取締役社長の甘利喜誉司さんからお話を頂きました。甘利さんは元農協の技術員であり、農協を辞めて就農後、法人を設立し、小諸市で大規模に葉物野菜を生産しています。甘利さんからは、従業員の労務管理や新規採用者の確保など法人経営者としての苦労や、地域の同業者や関係機関とのつながりを大事にすることで、自らの経営の改善につなげることができる点など、企業的な考え方についてお話を頂きました。特に、自分が楽しんで農業経営することが大事ということで、これからの進路選択について悩む農大生にとっては、非常に参考となるお話しが聞けたのではないかと思います。



宮嶋林檎園での様子



株式会社ファームあめりいでの様子